



社会福祉
法人 豊中市社会福祉協議会

ボランティアセンターだより

2013年(平成25年)10月31日

第58号

発行 社会福祉法人 豊中市社会福祉協議会

ボランティアセンターだより編集委員会

〒560-0023 豊中市岡上の町2-1-15

TEL (6848) 1000 FAX (6848) 1005

URL: <http://www3.ocn.ne.jp/~tcpcve>

ボランティアグループ
あれこれ

友愛電話による傾聴グループ 「聴くの会」編



市社協登録ボランティアグループ「聴くの会」は、市内のひとり暮らしで65歳以上の方と、月1回傾聴の電話をおこなっているグループです。

活動日は、第1～第4火曜日の各々10時～13時、13時～16時となっており、この中で月に一度、自分の都合の良い時間帯に申込者の方にお電話をかけています。

また、月1回定例会を開いてメンバー相互の情報共有や交流をはかったり、時には施設見学も行っています。

私たち「聴くの会」の活動は、他の

多くのボランティアグループと異なり、対面ではなく声のみでの活動となりますので、相手が見えないというデメリットはありますが、その分、より一層相手のお声に心を傾け、そのお話に寄り添えるようにと心掛けております。

皆さんからお聴きする色々なお話の中で、人生の先輩としての生き方を私たちに教えて頂いていると、いつも実感しております。

(聴くの会 K・F)



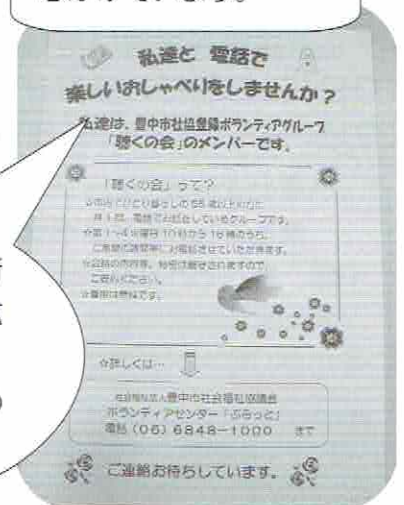
定例会では、より質の高い活動のために、学習会も開いています。



いつも、丁寧な傾聴を心がけています。



活動の紹介ちらしを新しく作成し、ご利用者を広く募集しています。
お知り合いにもお勧め下さい。



◎「聴くの会」の活動に興味のある方は…

☆定例会 (ボランティアセンター「ぷらっと」にて実施)

・ 第4木曜 10:00～12:00

☆活動日

・ 第1～第4火曜 10:00～16:00

☆お問い合わせ

豊中市社会福祉協議会 ボランティアセンター「ぷらっと」

豊中市岡上の町2-1-15(豊中市すこやかプラザ内)

☎ 06-6848-1000 FAX 06-6841-2388

ボランティアスクール入門講座



初めての高齢者疑似体験

- ①6月6日(木): 講話「はじめませんかボランティア」
講師—吉田芳子さん
- ②6月13日(木): 体験学習(車いす・アイマスク・インスタントソープ)
講師—市社協登録ボランティアグループ
「みちしるべ」「ステッキ」
- ③6月20日(木): ボランティア体験談など
講師—原田校区福祉委員会・市社協登録ボランティア
市社協登録ボランティアグループ「そよかせ」



先輩ボランティアの話に聞き入る参加者

これからボランティアを始めようという方のための基礎講座です。今年度はのべ74名の方が参加されました。

～参加者の声～

- ・ボランティアに関心を持った動機は、人に地域に少しでも役立ち、人との仲間作りができれば、ということだったが、それを再確認できた。
- ・自分の余暇を大事にしてできることをできるだけやろうと思う。

親子ボランティア講座



今年度も夏休み期間中、小学生とその保護者を対象に親子で共通の体験をすることで新たな気づきや発見をしていただく事を目的に、親子ボランティア講座を開催いたしました。今年は7月30日(火)に原田、8月6日(火)に服部、8月29日(木)に東豊中の各地域福祉活動支援セン

ターにて体験講座を行いました。

原田の車いす体験には3組7名、服部の手話講座には8組20名、東豊中の点字講座に2組7名の参加があり、それぞれの体験後には体験修了証を渡し、デイサービスセンターにて交流もしました。

～車いす体験～

乗る時も、押す時も楽しかった。押す時にはガタガタして不安だったけど、乗っている人が落ちなくて安心した。乗っている時はガタガタしたり、車が来ると急に止まったり、下り坂があると車いすを後ろ向きにして進んだり、驚きだった。(参加児童の声)



～手話体験～

とても貴重な経験をさせていただきました。皆で(手話で)歌を歌ったときは、なんだかとても感動しました。(保護者の声)

簡単な所と、少し難しい所があって、ふだん生活で使っているジェスチャーもあったので、覚えやすいとおもいました。(参加児童の声)



～点字講座～

実際に目の見えない方のお話を聞くことができ、とても勉強になりました。アルコールとノンアルコールの缶の違いや、牛乳パックの見分け方など、普段気が付いてなかったもので、これからはもっといろいろな気を付けてみようと思いました。点字体験はなかなかできない事なのでとても良かったです。(保護者の声)



夏のボランティア体験プログラム



今年も市内49か所の施設で受入れプログラムが用意され、その中の29か所の社会福祉施設などで、小学生から社会人、高齢者までのべ176名の方がボランティア体験をされました。「利用者がニコリと温かい笑顔を見せて『ありがとう』と言ってくれたことは、僕にボランティアの『やりがい』を強く感じさせてくれた」（高齢者施設でのボランティア体験）「しんどさも分かったけど、それ以上に楽しかったから、将来（幼稚園教諭に）なれるように頑張りたい」（保育所でのボランティア体験）など、貴重で充実した時間を過ごされました。

※この事業は、大阪府社会福祉協議会と市町村社会福祉協議会の共催で、大阪府内の社会福祉施設やボランティアグループ、NPO団体等の協力により、よりボランティアを身近に体験してもらうためのプログラムです。今年は、9月まで期間を延長して実施されました。

高齢者施設にて。
利用者と一緒に
レクを楽しむ。



保育所にて。
子どもと一緒に
遊ぶ様子。

教職員V体験学習研修会

8月2日(金)10時から2時間にわたって、今年度の教職員のためのボランティア体験学習研修会を実施し、小・中学校合わせて12名の教員の方々にご参加いただきました。

当日は、車いす・インスタントシニア体験グループ、点字・アイマスク体験グループ、手話体験グループの3班に分かれて、今後実施される小・中学校におけるボランティア体験学習に役立つよう真剣に取り組んでいただきました。

体験後には「実践的な内容を教えて頂けたので、学校内で応用できるよう研修を深めたい」「高齢者の方の気持ちや感覚を少しかもしれないが実感することができた。日常においても些細な事で自分がまず動こうと感じた」などの感想が寄せられ、それぞれの学校で体験学習の内容を検討するうえで役立ったことがわかりました。

これからの日本を支えていく小・中学生に、少しでも高齢者や障害者理解が広がるように、各ボランティアグループとの連携を図っていきます。

豊中市2年目職員研修への協力

ボランティアセンターでは、豊中市総務部人材育成センター職員研修所からの依頼により、豊中市職員で採用後2年目を迎えられた方を対象に、福祉体験のコーディネートを行っています。

今年度は、豊中市すこやかプラザの会議室において、7月2日(火)、5日(金)、10日(水)の3日間にわたり、車いす・アイマスク&白杖・インスタントシニア体験について、合計118名の職員の方々に体験して頂きました。

また、8月1日(木)には、「市民のボランティア活動と体験の心構え」と題した講義を受け、9月からは校区福祉委員会やボランティア・市民団体等で行われた合計24のプログラムのフィールドワーク(実習)をしていただきました。

11月にはまとめとして、それぞれの体験で得た内容を共有化するために行われた「報告会」に参加し、その成果を確認することになっています。

フレッシュでありながら市民目線で、市民にやさしい市職員となっていただけよう、これからも協力を継続していきます。



教職員も今日は生徒!?

高齢者疑似体験中!



東日本大震災支援 ボランティアバス報告

夏休みを利用して 8 月 18～21 日に豊中市内の 5 つの高校の生徒 31 名と 3 つの高校から引率教員 4 名、市職員 2 名、社協役員 2 名、社協事務局職員 3 名で岩手県大槌町、釜石市、陸前高田市へボランティアバスを運行しました。

18 日(日)夕方に、市役所前に集合して出発式を行い、17 時間かけて最初の訪問地である大槌町に到着。19 日(月)の午前中は、大槌町役場を表敬訪問し、平野総務部長から震災当時の状況や心境についてお話を頂き、午後から旧安渡小学校と旧金沢小学校に分かれて備蓄毛布の搬出ボランティアを行いました。その後、吉里吉里(きりきり)、大槌、安堵の 3 つの地域でグループに分かれて「お茶っこサロン」に参加し、サロンのプログラムや震災についてのお話を伺った後、大槌高校生徒会の代表 5 名とグループに分かれて交流しました。夜にはまとめとして、平野総務部長から一時間の講話をして頂きました。



出発式の様子



お茶っこサロンでの聞き取り



旧大槌町役場にて



握手でお礼

20 日(火)は、釜石市へ向かう道中で大槌町の被災状況を確認し、ひょっこりひょうたん島のモデルになったと言われている蓬萊(ほうらい)島と旧大槌町役場を見学しました。その後、釜石市の中妻仮設住宅にて、9 グループに分かれてそれぞれのお家の中で震災当時についてのお話をお聞きし、最後はお世話になった仮設住宅の方々と一人ずつ握手をしてお礼の気持ちを伝えました。

その後、最後の訪問地である陸前高田市へ移動し、まず、奇跡の一本松と仮設図書館を視察しました。豊中からも「陸前高田市にみんなで図書館をつくろう」を合言葉に、陸前高田市図書館夢プロジェクトに 10,386 冊の古本協力をおこなっています。陸前高田市役所では、陸前高田市の戸羽市長と久保田副市長から震災当時の話をしていただいた後、参加生徒から様々な質問をさせていただきました。また、陸前高田市図書館ゆめプロジェクトの協力者からのメッセージもお渡ししました。

4 日間の行程はあっという間に過ぎ、全員無事に豊中に帰ってくる事が出来ました。

参加者の感想

- ・被災地の現状を知る事が出来、命の大切さを学ぶことが出来た。
- ・一瞬であの街並みが消え去ったと聞きましたが、未だに建物が全て流されたことが信じられません。
- ・大阪に戻ったら、今の自分の生活に感謝して、今回の経験を色々な人に話していこうと思いました。
- ・このボランティアは自分の将来について考える良いきっかけになりました。
- ・津波で被害を受けた街の様子や瓦礫の山を見て、津波の恐ろしさをひしひしと感じました。
- ・豊中のことをもっと知って、もしも災害が起こった時に生かせるように備えたいと思いました。
- ・人生の中で 1 番いい経験ができた実感できるボランティアでした。
- ・こんな若い私たちに期待し、頼りにしてくれている事を感じ、良いプレッシャーになりました。

「ボランティアははじめま専科」ってなあに？

“うちのグループはこんな活動しているよ！一緒に活動しませんか”と、各グループのボランティアははじめま専科が行われています。「小さな手」は“にぎりっこ”の製作（7/11）、リフト付き自動車の試乗「豊中アッシー」（9/19）、「さわやか」のいきいき歌体操体験（10/16）など、グループの特色が紹介されました。若い人向けの「つぼみ」は夏休み中の学生にも目を向け、8月15日に開催しました。心理カウンセラー、八木満夫さんによる“お互いが笑顔になる傾聴のコツ”「ステッキ」（7/17）、「聴くの会」（10/23）は、桃山学院大学の佐瀬美恵子さんをお迎えして、講演会形式で多くの参加者と共にメンバーのスキルアップをはかりました。これからも色々なグループのはじめま専科が開かれます。一度のぞいてみませんか！！

（ステッキ K・S）



とよなか地域ささえ愛ポイント事業 報告

この事業がスタートして1年が経ちました。

昨年、平成24年10月からスタートし、昨年度は活動登録者761人のうち、398人の方々が支援金の申請をされ、合計808,000円が支払われています。今年度も9月末現在738人の



9/27に実施した研修会（認知症サポーター養成講座）の様子

方に、活動登録していただいています。また校区福

祉委員会以外の活動受入先は制度開始時には44施設でしたが、今年度は69施設に増えました。

9月27日には活動登録者を対象に認知症サポーター養成講座が開催され、92名の方々に参加していただきました。中央地域包括支援センター講師からは、認知症の正しい理解、認知症の方への接し方、豊中市老人介護者（家族）の会の西野さんからは当事者としてのお話と、会活動の内容を聞くことができました。この研修を是非今後のボランティア活動、地域福祉活動に活かしていただきたいと思います。

「とよなか地域ささえ愛ポイント事業」 とは？

活動登録者が、何らかの支援が必要な高齢者に係わるボランティア活動を行うことで、ボランティア活動の楽しさを知ってもらい、自身の介護予防、高齢者に対する学び、また地域の福祉施設・福祉活動への理解を深めてもらうための事業です。

活動実績に応じてポイントが付与され、年間5000ポイントを上限にポイント数に基づき、千円単位で活動支援金が支払われます。

※本事業へのご登録には、説明会への参加が必要です。

説明会は、毎月第1月曜日、第4火曜日

10:00～12:00

豊中市すこやかプラザ 2階会議室にて開催

※お問い合わせは

市社協ボランティアセンター「ぷらっと」まで

TEL 6848-1000



吹田市ボランティア連絡会と交流しました！



昨年、初めて他市町村ボランティア連絡会との交流会として吹田市ボランティア連絡会を訪問し、交流会を持った。今年度は豊中市に吹田市ボランティア連絡会をお招きし、7月19日にすこやかプラザで交流会を行った。吹田市ボランティア連絡会からは、会長を始め7名の方が来られ、豊中市ボランティア団体連絡会からは20名の参加があった。

課題としては、ボランティア希望者が少ないということから、今後はもっとボランティア活動に魅力を感じるような積極的な広報活動を行い、会員を集めていきたい。ボランティアグルー



交流会ではさまざまな意見がでました



ボランちゃんが吹田の方々にごあいさつ

プ同士の交流会として、年に1回のフェスティバルを吹田市役所の駐車場を使い、一般の市民や企業も巻き込んで、非常に大規模に実施している。毎年、1,000人以上の一般市民が参加し、会場での出店に対して、1ブース1,000円を徴収したり、企業からの寄付金も受けて、毎年盛大に行われている。

今後もこれを契機に他市町ボランティア連絡会との交流を持ち、親睦を深めるとともに、お互いの課題等を話し合い、今後のボランティア活動に役立てたいと考えている。

(みちしるべ M・H)



府市町村V連絡会北摂ブロック交流会報告



今年度の大阪府市町村ボランティア北摂ブロック交流会が、9月27日に豊能町で開催された。会場は、豊能町高山の右近の郷の高山コミュニティーセンターで、各市町から37人(豊中市社協ボランティア連絡会からは8人)豊能町から24人が参加。まず、主催者側の挨拶の後、会場の外に出て周りに広がる棚田を見学。使われなくなった棚田をNPO法人が再生し、米やそば、大豆などを生産しており、昔の景色を再生しようとの努力中。その後、元の会場に戻り、地元のそば打ち名人が棚田で取れたそば粉でそばを作る工程を見学し、全員打ち立てのそばをご馳走になった。最後に6グループに分かれて懇談に入ったが、それまでの見学時間が長すぎて、ほとんど懇談の時間が取れず、各ボランティア連絡会の状況や課題も話しあえず、残念な結果となった。ただ、全体として和やかで楽しい交流会となった。

(みちしるべM・H)



快晴のもと、和やかに参加



高山地区の美しい棚田



そば打ちの実演に見入る参加者



「そよかぜ」が 施設見学に行きました



神戸市北区の広大な自然の中に「しあわせの村」があります。『ワークホーム緑友』は、その一角にある障害福祉サービス事業所です。『ワークホーム緑友』は、昭和62年に開設、今年で26年目になります。神戸市の「手をつなぐ育成会」という家族の会が母体となり、社会福祉法人として開設されたそうです。私達「そよかぜ」のメンバーは、10月15日に見学してまいりました。

施設には、19歳から62歳まで、約50名（男性33名・女性17名）の方々（平均年齢約40歳）が在籍しています。自立した日常生活、社会生活を営むことができるように、様々な作業に取り組んでいます。

今回は、紙袋（ショッピングバック）の加工作業、さをり織り（機織り）作業、ミシンを使っの手芸作りを見学しました。紙袋の加工作業は、分担制で流れ作業で行います。ひとつひとつの紙袋を丁寧に仕上げる様子には、とても感心しました。他にも、「しあわせの村」の宿泊施設のリネン作業をしたり、体育館の掃除や除草作業など、個々に合った作業をしています。作業所でのお一人お一人の穏やかな表情からは、『ワークホーム緑友』のアットホームな雰囲気伝わってきました。

ひと昔前には、利用する方の事業所を行政が定めていましたが、時代の変化とともに、現在は、利用する方が自分にあった事業所を自分で選ぶことができるようになっています。開かれた時代に徐々に変わってきていると、事業所のスタッフがおっしゃっていました。こうした取り組みが継続することで、より働きやすい、より過ごしやすい社会になってほしいと感じました。

（そよかぜ K・O）

ボランティア

活動中！



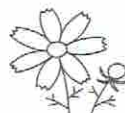
市社協の登録ボランティアグループ「ステッキ」の活動に参加させてもらって5年が経ちました。その間、途中で支援終了となった人たちのことが気がかりです。それには、重度の認知症という理由があったのです。限界でした。利用者の方に、「お名前は？」「名前？忘れた。」でも「私は私だよ。」・・・そうだよね！

ハンディキャップがあっても、認知症になっても「私は私」として生きることのできる地域社会。福祉制度には谷間があります。そこに入るのは弱い立場になった人たちです。

介護はサービスではない、生きることそのものを支えるもの。

谷間に少しでも風穴を開け、ただのおばさんとしてお手伝いできたらと思います。

（ステッキ Y・S）



この夏の暑さは私個人としてはとても尋常でなく、思い返すだけで汗するほどの日々の連続だった気がします。何の自慢にもならないが、“暑さ日本一”のニュースネタや活字にも出くわしたのは、39.8℃の8月12日（月）、更に翌々日8月14日（水）には38.9℃と二度も念押しされる始末。もちろん、豊中市初の出来事と聞きました。

我々の関わる外出支援ボランティア“豊中アッシー”でも、予約キャンセルや送迎中にも体調を崩されたりと影響があったのは、多くが高齢者であるため、仕方のないことでしょう。送迎車両内での短い会話、付き添いの方からのエピソード話に時の移ろいを感じる瞬間が大好きで、この活動をもう少し続けたいとの思いがあります。毎朝のストレッチ運動で、この夏乗り越えた暑さと、「倍返し」になりそうなこの冬の寒さにも負けぬ身体、気力を維持できればと思うのは欲深なことだろうか。豊中市内や市外近郊の病院も含め、通院・外出に“豊中アッシー”をぜひともご活用いただきたい。

（豊中アッシー M・S）

今後の予定



☆年賀状ボランティア

11月15日(金)	} いずれも 10時～12時 及び 13時～16時半 好きな時間 にご参加ください。
21日(木)	
22日(金)	
25日(月)	
27日(水)	
28日(木)	
12月 2日(月)	
6日(金)	

場所：すこやかプラザ 2階会議室

☆Vネット サタデーボランティア入門講座

11月30日(土) 13時30分～16時

場所：すこやかプラザ 2階会議室

☆災害支援訓練

1月18日(土) 9時～11時(予定)

場所：すこやかプラザ

☆市社協登録ボランティア「新年の集い」

1月22日(水) 11時～(予定)

場所：市立福祉会館

☆第21回豊中ボランティアフェスティバル

2月8日(土) 10時15分～15時30分

場所：すこやかプラザ (予定)

☆Vネットヒューマンバザー

2月8日(土) 10時～13時(予定)

場所：すこやかプラザ テッキ広場

☆Vネット チャリティーセミナー

3月8日(土)

13時30分～15時30分(予定)

場所：福祉会館

豊中のボランティアイメージキャラクター

「ボランちゃん」

をあらためて紹介します！！



これからもヨロシクお願いします。

★出身地：大阪府

★所属：豊中市社会福祉協議会

★誕生日：1998年11月3日

★性別：不明(妖精)

～ボランちゃん誕生秘話～

ボランティアのイメージキャラクターとして、一般市民の募集作品から決めました。これまで、歌や種々のキャラクターグッズを作成し、ボランティアの手作りだった初代着ぐるみを、昨年新調し、さらに愛らしく生まれ変わったボランちゃん、これからはさまざまな場面で豊中の「ボランティアのシンボル」として登場します。応援してください。



編集後記



今までに経験したことのないような暑さと、豪雨に見舞われた夏もようやく過ぎ、さわやかな秋が訪れてきました。市社協ボランティア団体連絡会では、今期の事業として吹田市ボランティア連絡会との交流会を豊中で行いました。今後も他市町村ボランティア連絡会との交流会を計画し、今後のボランティア活動に役立てたいと思っています。(みちるべ)